

みんなでつくる野外彫刻オーディオガイド

アートの現場から

ACAC通信

段々と寒さが和らぎ、春が近づいてくることを感じる季節になりました。青森公立大学国際芸術センター青森（ACAC）の市民交流事業「表現のコモンズ」では、およそ一年前からアーティストの津田道子さんをゲストに迎え、断続的なワークショップを通して地域住民の方や学生たちと一緒に、青森市内にある野外彫刻のオーディオガイドを製作してきました。

映像メディアの特性を活かした作品制作をしている津田さんは、普段目にしていない風景に音声が加われば映像のように見えるのではないかという仮定に基づき、これまでも横浜のオルタナティブスペース「anClass」や「あいちトリエンナーレ2019」でオーディオガイドのワークショップや作品を手がけてきました。

今回はACACが2020年度から行っている「表層/地層としての野外彫刻プロジェクト」ここにたつ『I』の一環として、20

22年3月18日にトーク「野外/屋外にある作品と、それらと関わること」を開催。これまでのオーディオガイド作品についてだけでなく、津田さんが金沢美術工芸大学の彫刻学科に准教授として赴任してから学生たちと行っている、パフォーミング「彫刻をいたわる」なども紹介。このトークでオーディオガイド製作に興味を持った方たちを中心に

に、さらに6月上旬と8月下旬の数日間にわたってワークショップを実施してきました。

ワークショップでは、ACAC敷地内に設置されている野外彫刻を皆で鑑賞し、思ったことを言葉にしてみる練習や、これまで青森で暮らす中で気になっていた、個人的な思い出があったりする野外彫刻について語り合いました。8月には映画や映像作品の録音の第一線で活躍する、アーティストの藤口諒太さんを招いて、録音や整音の基本について学ぶとともに、実



青森市街地での録音の様子。中央左が藤口諒太さん、中央右が津田道子さん

際に市街地へ出かけて様々な野外彫刻やモニュメント、記念碑の前でオーディオガイドの録音を開始しました。1人につき1〜3か所の録音を行い、その数は25か所以上になっています。現在、音声の編集・整音作業をワークショップ参加者も交えながら手分けして行うとともにマップの製作を進めており、3月末には皆さんにもオーディオガイドを聴きながら、野外彫刻を起点とした市街地散策を楽しんでいただけるよう、当館公式HPなどで公開する予定です。

オーディオガイドと言っても、野外彫刻の背景や歴史など事実に関する説明に終始するものではなく、むしろ変わり続けるモノとヒトの関係性や個人的な記憶を表現してみることを重視しており、普段目にしていない風景がこのオーディオガイドによって少し違って見える、他者の語りを通してそれぞれが場所とのつながりを再考する機会になることを願って製作しています。青森に馴染みがない人にとっては、このガイドを通して素顔の青森に触れられるきっかけにもなることでしょう。

（青森公立大学国際芸術センター青森学芸員 慶野結香）